

その36 蹉跎

(平成13年2月1日号—第211号)

京阪光善寺駅から線路沿いの府道枚方八尾線を南へ数分歩いて行くと、左手に鳥居が立ち、山手に延びる参道に出くわします。この参道を上ったところに蹉跎[さだ]神社が鎮座しています。祭神は菅原道真[すがわらのみちざね]です。



23 蹉跎神社(南中振1丁目)

この神社は、どうして蹉跎と名づけられたのでしょうか。昌泰[しょうたい]4年(901)、菅原道真が大宰府に左遷され、京都を発ち九州に向かう途中、この地で休息し、都の山々を望み名残を惜しみました。その道真を慕って、娘の

苅屋姫[かりやひめ]が後を追って来たのですが、姫が着いたときは、すでに道真は旅立った後でした。姫は、ここから父の行方を見晴らし、足ずりして悲嘆の涙に暮れました。足ずりとは、嘆き悲しんでじだんだを踏むことで、蹉跎とも表現します。ここから、蹉跎という地名が生まれたといえます。

道真は、姫の事情を哀れみ、大宰府から自作の木像を送り与えました。天暦[てんりゃく]5年(951)この木像を御神体として、社殿[しゃでん]を設け、近郷の氏神としたのが蹉跎神社の起源です。

明治22年(1889)町村制の施行に先立って、町村合併が進められました。その時、中振・走谷・出口の3村が合併して蹉跎村が誕生しました。村名は、3村共通の鎮守社である蹉跎神社からその名をとりました。

ところが、蹉跎村は、昭和13年(1938)、枚方町など6町村が合併した際に、なくなりました。その後、地名としてはあまり使われなくなりましたが、現在、神社のほか、保育所、幼稚園、小学校、中学校や公民館^{*1}など公共施設にその名をとどめています。

蹉跎山にも開発の波が押し寄せ、神社周辺だけが今も鬱蒼[うっそう]とした木々に覆われています。道真にまつわる神社や旧跡は各地にあります。枚方の旧跡を一度訪ねて、道真親子に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

*1 平成18年10月から蹉跎生涯学習市民センター。